

中間報告会の実施報告 JaSPCAN ふくおか大会 公募シンポジウム

- <企画者> 全国児童家庭支援センター協議会 ^{はしもとたつまさ}橋本達昌 氏
発表者① 全国児童家庭支援センター協議会 ^{はしもとたつまさ}橋本達昌 氏
発表者② 児童家庭支援センターちゅうりっぷ ^{かたぎりひろし}片桐洋史 氏
発表者③ 福岡市子ども家庭支援センターSOS子どもの村 ^{まつざきよしこ}松崎佳子 氏
発表者④ 立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 ^{さいとうまお}斎藤真緒 氏

<テーマ>

ヤングケアラー支援の課題と展望 ～児童家庭支援センターの実践から見えてきたこと～

<キーワード>

ヤングケアラー、児童家庭支援センター、ファミリーソーシャルワーク

<企画趣旨>

わが国では、2016年の児童福祉法の抜本改正と、その翌年にとりまとめられた「新しい社会的養育ビジョン」によって、家庭養育優先やパーマネンシー保障の理念が明示されたが、これらが実効化していくためにはファミリーソーシャルワーク機能の向上が不可欠であり、児童家庭支援センターがその担い手として最有力視されていることは周知のとおりである。

ところで近年、ヤングケアラーが社会問題として注目されてきているが、従前より児童養護施設等から家庭復帰した場合に、施設退所児童・青年が、病気や障害を抱えた保護者等をケアするケースは少なくなかった。それゆえ当該家族へのアフターケアを担ってきた児童家庭支援センターには、ヤングケアラー支援に関する一定の経験の蓄積があるといえよう。

そこで本シンポジウムでは、実際に多様なヤングケアラー支援を行っている児童家庭支援センターから実践報告を受けるなかで支援上の課題を抽出するとともに、児童家庭支援センターによるヤングケアラー支援の展望を共有することで、今後のヤングケアラー家族を対象としたファミリーソーシャルワークの可能性を模索していく。

<抄録>

1 児童家庭支援センターによるヤングケアラー支援の検証

全国児童家庭支援センター協議会（児童家庭支援センター一陽） 橋本 達昌

2022年4月より、大分県、福井県、栃木県、福岡市、横浜市において、現にヤングケアラーへの支援を展開している児童家庭支援センターの活動に関する検証事業の概要を報告する。とりわけ社会的養育ソーシャルワークとして特徴的な事例（精神疾患を抱えた保護者とヤングケアラーへの支援や外国籍ファミリー内でヤングケアラーとなっている児

童・青年等への支援事例等)について考察を深める。

加えて「子どもの最善の利益のために」、「すべての子どもを社会全体で育む」という社会的養護の基本理念は、いかに各々のヤングケアラー支援にかかるファミリーソーシャルワーク実践現場において実現されていくべきなのか。今後、児童家庭支援センターが地域において果たすべき機能や役割も踏まえつつ考究していく。

2 社会的養護的な観点から捉えたヤングケアラー支援ニーズ

児童家庭支援センターちゅうりっぷ 片桐 洋史

栃木県の児童家庭支援センターちゅうりっぷでは、ヤングケアラーを支援する過程において、保護者の精神的不安定や生活環境の不衛生、生活困窮や不登校など、複合的な課題への包括的な対応が求められてきた。保健、福祉、教育等の関係機関と実際に生じた困難等を共有化し、子どもを含めた家族全体を地域で支えるソーシャルワークを検討する。

3 官民協働による先進事例としてのヤングケアラー支援

福岡市子ども家庭支援センターSOS子どもの村 松崎 佳子

福岡市の児童家庭支援センター(SOS子どもの村)では、全国に先駆けヤングケアラー支援に特化した相談窓口を設けるなど多彩な支援を展開している。このような支援事業の概要や実績について報告を受ける中で、ヤングケアラー支援の課題(支援の難しさや制度上の障壁等)について考察し、今後の展開可能性を模索する。

4 ヤングケアラー支援の課題と展望

立命館大学 斎藤 真緒

イギリスのヤングケアラー支援でも重視されている「家族まるごと支援 Whole Family Approach」という観点から、児童家庭支援センターによる支援実践について、課題と展望を考察する。同時に、ヤングケアラー支援において、当事者自身の声に寄り添う支援とは何かということについて、課題提起を行う。

なお本演題で発表する内容における事例については、いずれも個人を特定されないことのないよう匿名性に配慮した。